

メタファー構造の観点から英語学習を考える： 語の意味拡張と語彙習得

沖本 正憲

1. はじめに

21世紀に入り、応用認知言語学が提案されると認知言語学の知見が日本語教育や英語教育の実践現場で論じられるようになった(e.g. 荒川・森山 2009, Littlemore 2009, 東 2014, 沖本 2017, 鷺見・松浦 2019).

過去に本誌では、沖本(2014)が認知言語学に基づいて身体と物体の写像関係に言及した。やや奇異に映ったかもしれないこの論考が英語教育と関係があるのは、メタファー(隠喩)を理解できなければ談話や文章の理解に支障をきたすということと関係がある。

沖本(2014)の視点はその後発展し、沖本(2021)では身体メタファーが生活環境とどのような関係にあるのかが示された。続く沖本(2022)では認知と言語の関係が詳しく考察され、メタファー理解が中級レベルの英語学習者に必要であることも述べられ、メタファー研究の具体論が展開されている。

こうした流れに基づいて、本稿では学習者が苦勞する単語の学習について、メタファー理解が意味の推測に役立つことを提案する。なお、筆者は高校3校(1982～2006)と高専1校(2006～2020)で英語教育に携わってきたが、この間も学習者は語彙の習得に苦勞し、暗記方式で対応している姿が何度も見られた。

2. メタファーの理解

高津・関根(1964:64)によれば、シャンポリオンは古代エジプトの聖刻文字にもメタファーが使われていることを明らかにし、たとえばワニは「貪欲」という概念を表していたという。

ここで、新聞で「人生相談」を担当する作家の高橋源一郎の記事の一部を引用する。24歳の女性が学生時代から受けたいじめや嫌がらせに仕返しをすればよかったと悩む相談に対して、高橋は次のよう

に回答している。

彼らはもろいあなたの心身を傷つけた。そしてたぶん忘れた。でも、あなたの傷はまだ癒えない。それどころか、いまでも痛みつづけている。なぜなら、あなたはまだ彼らの支配下にあるからです。暴力の真の恐ろしさは、直接的な痛みではなく、その暴力の汚さに、感染させつづけることにあるのです。

(毎日新聞朝刊, 2023年2月19日)

私たちはこの文を難なく解する。しかしそこには「もろい」「傷」「痛み」「汚さ」「感染」などのメタファーが見られ、こうした比喩的な意味を理解しているからこそ私たちにはわかるのである。

次に英語の例を示す。

He said to them, "We are seeing the light at the end of the tunnel. We only have a short way to go. The end is in sight." After saying that, he left the conference room.

(Lakoff 1993:222 一部改め)

この文では最後に conference room とあることから、light や tunnel がメタファーであることに気づき、内容が把握される。

このようにメタファーは日本語や英語においても日常会話に溢れているが、学生にとってメタファーはときとして文解釈の障壁になることがある。

この問題について、沖本(2022:80-87)は高専での実践例を紹介している。そこでは高専の4・5年生の選択科目で、文脈を示さず I'm feeling up today の意味を学生に問うと、約8割が回答に窮した。しかし、次のような日本語の例(1)と(2)を彼らに

提示すると、それが「今日は気分が良い」という意味だとすぐに気づいた。

- (1) a. 嬉しくて思わずハイになる
 b. 高揚感に包まれる
 c. 合格の知らせに舞い上がる
 (2) a. 叱られて落ち込む
 b. 絶望のどん底にいる
 c. 失敗したことで気持ちが沈んだ

沖本(2022: 80)

ただし、日本語の「山の麓」と英語の a foot of the mountain では山の姿自体が異なっているように、日本語と英語のメタファーに正確な類似性が常に認められるというものではない。事実、日本語の顔／面は、英語で face of a wall(壁面), north face of the Eiger(アイガーの北斜面(北壁)), face of a document(文面)というように日英語表現に類似性が見られるが、face of a clock(時計の文字盤), dial face(計器の文字盤), face of a card(トランプの絵札)では類似性が見られない。

さて、こうしたメタファー意識(awareness)を高めることで文理解を容易にさせる試みに、Boers (2000)がある。Boersは経済・経営学を専攻するベルギーの大学生(フランス語話者)を対象にして、trade barrier, cash flow, human resourcesなどの経済用語の意味を推測させた。この結果、推測力を向上させるためには、メタファー構造の理解が重要であることが明らかになった。これらの経済用語に関して、日本の英語学習者にとって barrier, flow, resource といった単語を知っていれば、「貿易障壁」「現金流量」「人的資源」のことだとわかる可能性は充分あるだろう。

3. 単語の意味拡張

学習者を悩ませる語に動詞 run がある。筆者が何度も経験した例は、She runs the hotel の意味がわからないというものであった。結局彼らは、runには「～を経営する」という意味があると暗記的に覚えるであった。

すでに知られているように、多義語には意味のネットワークがあり、ある意味から別な意味へと拡張している。しかもメタファーに着目すると、それが

どのように意味拡張するかが見えてくる。

日本語に「自転車操業」「運転資金」ということばがあるが、会社経営に関する語句が乗り物を用いた用語で示されている。実は会社経営が乗り物と関係するのではなく、経営を運動として捉えたメタファー表現なのである。

先の She runs the hotel も同様で、生物の運動性という観点から自然界の無生物に視点を移すと、この文の意味が推測できる。つまり、根源的な「走る」という意図性のある主語の動きから意図性のない無生物に、生物の走る姿を写像するのである。そうすると、順に例(3)で示した「流れる」「広がる」「ほつれる(伝線する)」という運動性が見えてくる。

- (3) a. The river runs through the valley.
 b. Our conversation ran on various topics.
 c. These stockings run easily.

興味深いことに、名詞 run には「(野球・クリケットの)得点」という意味がある。一目で推測することは難しいが、ゲームにおいて「走る」ことに焦点を当て、その結果を写像したものである。

さらに学習者を混乱させる例を見てみよう。plant の動詞と名詞についてである。語源的には植物に関係する語であるが、順に例(4)と(5)で示した「植え付ける」「立ちはだかる」「罨」「工場」などの意味がある。それは動詞において植物の「植える」から「設置する」という意味拡張が生じたことによる。名詞においては「設置」に加えて、植物の生産性及び花壇や農地のような場のイメージが意味拡張を促進したと推測される。

- (4) a. The lawyer tried to plant a sense of guilt in the mind of the jury.
 b. He planted himself in my path.
 (5) a. The police used a plant to trick the thieves.
 b. They built a large plant to manufacture automobiles.

予想が困難なメタファーによる意味拡張の代表例に(6)の名詞 bank がある。従来は同音異義語だとされていた。

- (6) a. I put my money in the bank.
b. She climbed down the bank to pick flowers.

bank の語源は(6b)の「土手, 堤, 堤防」である。それが(6a)の「銀行」という意味に拡張したのは、両替商や金貸しの店舗の勘定台が少し高い位置にあったことによるという(Lakoff & Johnson 1980: 110-114)。

以上の考察から、先に言及した Boers (2000) が提案したメタファー意識を高めることが外国語教育にとって重要であることが明らかとなった。しかし、問題はどのようなわかりやすい方法で学習するかについてである。その一つの方法は沖本(2017)が提案したプライマリー・メタファーの導入である。

4. プライマリー・メタファー

認知言語学では環境(世界)を認識する基盤は人の経験に根ざすという立場をとる(Gibbs 1994, 2006; Johnson 1987; Lakoff 1987; Lakoff & Johnson 1999)。したがって、人が成長に伴う学習過程で無意識かつ自然に獲得し、かつ環境との相互作用の中で身体経験に基づく学習過程を通して獲得したメタファーであれば、多くの言語や文化で共通に見られるメタファーである可能性が高い。

たとえば、「温かさ」は基本的には温度と関係することであるが、「思いやり」「優しさ」という意味もある。Grady (1997)によると、それは母親のぬくもりを感じるといった原初的体験から形成されたメタファーだからだという。原初的かつ第一義的な比喩という意味で、それらはプライマリー・メタファーと称される。

(7a)のプライマリー・メタファーの他に、次のような根源的に思考や概念の基礎をなす概念メタファー(conceptual metaphor)の例がある。

- (7) a. AFFECTION IS WARMTH
b. MORE IS UP; LESS IS DOWN
c. TIME IS MOTION
d. KNOWING IS SEEING
e. UNDERSTANDING IS GRASPING
f. HAPPY IS UP; SAD IS DOWN

(7)の例は順に(8)の日本語の例と意味的な共通点が

見られる。

- (8) a. 温かい心を持つ
b. 塵も積もれば山となる
c. 光陰矢の如し
d. 百聞は一見にしかず
e. 内容を把握する
f. 感情の浮き沈み

こうした日英語で類似するメタファーについて沖本(2022: 93-98, 167-188)では、Grady(1997)が示した例を詳細に検討し、5つの範疇から89の訳例を示している。さらには、同種の日本語の例も掲載してある。

言うまでもないが、日常で使用されるメタファーの多くがプライマリー・メタファーであるという意味ではない。しかし、メタファーを理解するための導入方法としては、プライマリー・メタファーを用いた例はわかりやすい教材だと考える。

5. おわりに

米国のジョンズ・ホプキンス大学医学部のHP(<https://www.hopkinsmedicine.org/health/conditions-and-diseases/the-pancreas>, 2023年2月25日)を見るとわかるように、人の膵臓は勾玉やオタマジャクシのような形をしている。そのページの説明では、膵臓の部位は向かって左側から head, body, tail ということとある。このことから何らかの生物の外形を人の膵臓に写像していることは明らかであり、日本語でも「頭部」「体部」「尾部」という。

沖本(2022: 58-63)が示す人間や動物の身体を物体に写像することは、このように医学分野でも応用されている。それはメタファーのこうした機能が、人の認知(思考・推論・判断など)の基盤になっているからである。

さらには、人は身体を物体に投射することで思考や言語に枠組みを作ってきた。たとえば、十進法は指の数に関係があるという点で身体に基盤を持つ数学である。また、双数は手・足などの人間の身体の対となっている部位に由来する概念である。アラビア語やエスキモー語の名詞には、1つのもの、2つのもの、3つ以上のものを表す単数形、双数形、複数形という文法的な数の区別がある。双数形がない

日本語や英語にも、「一対」「対称」「双方」「両方」や both, between, couple, pair, twin などの2つに特化した表現がある。

本稿ではメタファー意識を高めることによって、語彙習得が容易になることを明らかにした。外国語教育においては過去から今日に至るまで様々な学習理論が展開されてきたが、突出して効果的であるとされる理論はなかった。その理由の一つは、学習者一人一人が異なる個性を持ち、様々な動機付けで習得に臨むからだろう。ある理論を用いても一律に効果が出ないのは、学習者がある意味で人間らしいからである。換言すれば、人の認知機能を十分に検討し、それを把握した上での理論が必要なのである。

参考文献

- 東眞須美(2014). 『比喩の理解』 ひつじ書房.
- 荒川洋平・森山新(2009). 『日本語教師のための応用認知言語学』 凡人社.
- Boers, Frank (2000). Enhancing metaphoric Awareness in specialized reading. *English for Specific Purposes* 19 : 137-147., Oxford: Pergamon.
- Gibbs, Raymond W., Jr. (1994). *The Poetics of Mind: Figurative Thought, Language, and Understanding*, Cambridge: Cambridge University Press. (辻幸夫・井上逸兵衛監訳(2008). 『比喩と認知』 研究社.)
- Gibbs, Raymond W., Jr. (2006). *Embodiment and Cognitive Science*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Grady, Joseph E. (1997). *Foundations of Meaning: Primary Metaphors and Primary Scenes*. Ph. D. dissertation, University of California, Berkeley.
- Johnson, Mark (1987). *The Body in the Mind*. Chicago: The University of Chicago Press. (菅野盾樹・中村雅之訳(2001). 『心の中の身体：想像力へのパラダイム変換』 紀伊國屋書店.)
- 高津春繁・関根正雄(1964). 『古代文字の解説』 岩波書店.
- Lakoff, George (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*, Chicago: The University of Chicago Press. (池上嘉彦・河上誓作他訳(1993). 『認知意味論』 紀伊國屋書店.)
- Lakoff, George (1993). The contemporary theory of metaphor. In Andrew Ortony (ed.), *Metaphor and Thought*, second ed. 202-251., Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三他訳(1986). 『レトリックと人生』 大修館書店.)
- Lakoff, George and Mark Johnson (1999). *Philosophy in the Flesh: The Embodied Mind and Its Challenge to Western Thought*. New York: Basic Books. (計見一雄訳(2004). 『肉中の哲学：肉体を具有したマインドが西洋の思考に挑戦する』 哲学書房.)
- Littlemore, Jeannette (2009). *Applying Cognitive Linguistics to Second Language Learning and Teaching*. Palgrave Macmillan.
- 沖本正憲(2014). 「物体を身体に喩える理由：認知の世界」『CHART NETWORK』 72 : 9-13. 数研出版.
- 沖本正憲(2017). 「英語の比喩表現の理解：プライマリー・メタファーの観点から」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』 36 : 11-20.
- 沖本正憲(2021). 「身体投射：私たちはなぜ対象物に身体モデルを用いるのか」山梨正明編『認知言語学論考』 15 : 29-66. ひつじ書房.
- 沖本正憲(2022). 『東京は砂漠なのか：メタファーからことばを考える』 三恵社.
- 沖本正憲・Donald A. Norman (2010). 『英文読解ストラテジーで学ぶ：科学と人間のための英語読本』 開拓社.
- 鷺見幸美・松浦光(2019). 「概念メタファー理論に基づいた教科学習支援：社会科3・4年生教科書の分析を通して」『2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集』

(元・苫小牧工業高等専門学校創造工学科 教授)